

四万十川のシンボル「沈下橋」

～一斗俵沈下橋、登録有形文化財に～

四万十川では秋が一層深まり、ところどころ紅葉も見られます。清流通信のみなさんは元気にお過ごしでしょうか。

四万十川のシンボルであり、流域の原風景を形づくる沈下橋。流域には47の沈下橋があります。今回は、10月20日に沈下橋としては全国で初めて、国の「登録有形文化財」に登録された「一斗俵(いっとひょう)沈下橋」をご紹介します。

「一斗俵沈下橋」は、四万十川流域に現存する最古の沈下橋で、昭和10年に建設されました。中流域の窪川町一斗俵に位置し、窪川町中心市街地から上流に向かって車で10分程のところにあります。

この沈下橋は、築後50年を経過し、国土の歴史的景観に寄与していることから、有形文化財として登録されたものです。

橋の近くで商店を営んでいる羽方日出男さん(83才)に建設当時のお話を聞きました。建設前には、兩岸を結ぶ渡し船があり、橋の建設とともに廃止されたそうです。また建設にあたっては、当時の役場からの支出だけではなく地元も相応の負担をしたこと、橋脚の水中での床堀は潜水夫が手作業で行っていたこと、工事現場で川に落ちた作業員には温めた豆腐がふるまわれた話などがありました。

羽方さんから、一斗俵沈下橋が人間だったらこんなこと言うんじゃないか、ということもお伺いしました。



わしは「一斗俵沈下橋」。戦前の昭和10年に生まれ、今年で65才になる。年金の代わりに「文化財」という表彰をもらったようなもんじゃ。

長さは60.6mで幅は2.5m。仲間のうちでは中くらいの大きさじゃ。作られて数年もしないうちに真ん中の足を大水にさらわれてしまって、しばらくは使いもんにならんかったが、戦争から帰ってきた人たちに修理してもらったんじゃ。

昔はわしの上をバスやトラックが走っていて、人や物がずいぶん行き交ったものじゃ。が、孫みたいな橋がすぐ下流にできて、わしの役目は、子ども

たちの水泳の飛び込み台や魚釣りの絶好のポイントになったんじゃ。そうこうしているうちに、面倒みきれんから壊そうという話がおこった。じゃが、わしと一緒に育った頃合いの者たちが、わしはこの地の文化そのものだから壊さず残そうと言ってくれたおかげで、命拾いしたわい。

仲間から聞いた話じゃが、沈下橋を渡って嫁いできた嫁さんが祝言をあげている最中、大雨が降ってきたんで、橋が水中に没するほど水かさが増える中、嫁さんの親戚連中が大慌てでわしの仲間の上を帰っていったこともあったそう。わしが生まれてからいろいろあったもんじゃ・・・

窪川町役場では、一斗俵沈下橋を地域おこしにも活用していきたいと話しています。沈下橋の保全と活用が、四万十川の保全と活用にも大きくつながっていくことを期待しています。

津野山(古式)神楽

毎年10月末～11月にかけて、梶原町と東津野村の津野山一帯の神社で奉納される踊りで、全てを舞納するには約8時間を要すると言われる勇壮な神楽です。

梶原町では「津野山神楽」、東津野村では「津野山古式神楽」と呼ばれており、いずれも国の重要無形民俗文化財です。

お問い合わせ先 梶原町役場 0889-65-1111

東津野村役場 0889-62-2311